

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



4面

福島県家の光大会で  
JAでんきをPR  
(福島県本部)

5面

全農所属 石川佳純さん  
出演CM第2弾  
(広報・調査部)

配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



News!



## 47都道府県のレシピ動画をSNSで公開

各地の米と食材にぴったりなおかず

米穀部

動画で全国各地の食材を使った「ごはんのおかず47レシピ」を紹介！



さらに、特別企画「お米伝道師の神レシピ47」と題して、

動画では、全国各地の米の食味の特徴と、「牛肉と大根の甘辛煮（岐阜県・美濃八ツシモ編）」「玉ねぎと帆立のバター醤油（北海道・ゆめぴりか編）」など、47都道府県の食材を使って作る米が食べたくなるメニューを紹介しています。

全農は「お米をおいしく、楽しく食べていただきたい」という思いを込めて、8月18日から、全国各地の米と47都道府県の食材を使った米にぴったりなおかず全47レシピを紹介する動画をYouTubeなどで公開しています。

### 【各種動画はこちらから】

JAタウン公式YouTube  
「ゆるふわちゃんねる」



米穀部  
公式Xアカウント



米穀部公式  
Instagramアカウント



月に1本、8府県（青森県、岩手県、福島県、岐阜県、三重県、京都府、香川県、大分県）それぞれで米穀を担当する全農職員が各地の銘柄米の魅力動画を紹介します。全国各地のお米の魅力が詰まった内容になっています。

News!



## 親子で食農教室「食の学校2024」開催

農業クイズやバーベキューで県産農畜産物を身近に

岡山県本部



「食の学校2024」参加者

イベントは、参加者に多様な農業の魅力を知ってもらうとともに、県産食材のPRと消費拡大を目的に開催されました。

農業クイズでは、「晴れの国」と呼ばれる気候や、特産の黄ニラや白桃の栽培方法など、岡山ならではの問題を出题。「でえれえ好きじゃけん岡山大使」のお笑い芸人リンクアップとっしーさんもMCとして参加し、参加者は楽しみながら全問正解を目指しました。



産地マップ作りを体験する子どもたち

バーベキューでは、「おかやま和牛肉」を含む多彩な県産食材を提供し、お土産には白桃を贈呈するなど、食材の魅力を発信しました。

子どもたちを対象にした、産地マップ作りやドリンクヨーグルト作り体験、保護者を対象にした栄養学の授業なども実施し、参加者へ食の多様な役割や、食を支える農業や産地の重要性を伝えました。参加した保護者からは「子どもには岡山のおいしい物をたくさん食べて元気に育ってほしい」との声が聞かれました。

岡山県本部は8月1日、まぎばの館（久米郡美咲町）で、食農教室「JA全農おかやま presents 岡山の農業を楽しく学ぶ食の学校2024」を開催し、小学生と保護者ら33人が参加しました。



# 大学と連携し「食と農の体験教室」

## ダイコン料理とダイコンおろしアート作品作り

岐阜県本部

子どもたちも学生に教わりながら  
タコライスを調理



体験教室は、同大学管理栄養学科の学生と協力して開催されました。みずみずしい「ひるがの高原だいこん」の魅力を引き立たせるレシピと、アート作品作りを通じて、夏ダイコンの消費拡大を促すことが目的です。

岐阜県本部は7月20日、各務原市の東海学院大学で「食と農の体験教室」を開催しました。34人の親子らが「ひるがの高原だいこん」を使った料理と、ダイコンおろしで「食べられるアート作品作り」を体験しました。

親子で楽しめるアートに挑戦



シャキとした食感が楽しいタコライスと、ダイコンなのにつるりと食べられるわらび餅風スイーツを作りました。アート作品作りでは、学生が形作りのこつや色付けのアイデアを伝えると、参加者はすりおろしたダイコンを型にはめるなどして形成した後、梅酢やカレー粉、ひじきなどを使って色付けし、作品を完成させました。

イベント参加者には「ひるがの高原だいこん」や「岐阜えだまめ」などを提供し、家庭での県産青果物の活用を呼びかけました。

シャキとした食感が楽しいタコライスと、ダイコンなのにつるりと食べられるわらび餅風スイーツを作りました。



# 「JA全農広報部さんと考えた 毎日おいしい野菜の作りおき」

## 【公式】noteの記事を書籍化 簡単でおいしい常備菜レシピを紹介

広報・調査部

65品のシンプル野菜レシピを掲載



定 価：1595円(本体1450円+税)  
商品形態：単行本 ※電子書籍もあります。  
ページ数：128



全農は、SNS「note」のアカウント「JA全農広報部【公式】」で、国産農畜産物を使ったレシピ提案や全農の取り組みなどを幅広く紹介しています。同アカカウ

全農は、書籍「JA全農広報部さんと考えた 毎日おいしい野菜の作りおき」を監修し、8月2日に(株)ワニブックスから発売しました。忙しい毎日を通す方々に、気軽に野菜を食べていただきたいという思いから、簡単に作りおきができる野菜の常備菜レシピを65品紹介しています。

全農は、SNS「note」のアカウント「JA全農広報部【公式】」で、国産農畜産物を使ったレシピ提案や全農の取り組みなどを幅広く紹介しています。同アカカウ

noteで紹介したレシピのほか、フードコーディネーター井上裕美子さんご協力のもと、シンプルで簡単、飽きずに料理が楽しめる、野菜の作りおきを65品紹介しています。

全農はこれからも、国産農畜産物のおいしさやレシピなど、消費拡大につながる情報を発信していきます。

JA全農広報部  
【公式】noteは  
こちら



# 福島の家の光大会でJAでんきをPR

他社からの乗り換えや利用までの流れなど説明

福島県本部

福島県本部職員によるJAでんきの説明



大会の昼の休憩時間を活用し、県本部職員がJAでんきの歩みや実績、他社からの乗り換えや利用までの流れ、諸手続き、価格優位性、最大3000円引きのお得なキャンペーンなどを説明しました。

福島県本部は7月10日、約420人が参加した「令和6年度福島県家の光大会・JA福島女性部活動体験発表・生活文化活動発表大会」で、JAでんきをPRしました。

今後、さまざまな機会でもPRし、数多くの組合員や地域の方々にJAでんきを利用してもらえるよう推進する予定です。

また、福島県本部は、JAでんきをはじめとする生活関連サービスの提供などを通じて、組合員らの営農と生活コスト削減に貢献していきます。

# 「アグリマシフェア2024」を開催

メーカー約40社が出展 最新農機や資材を展示販売

群馬県本部

直進アシストトラクターの実演会



農機メーカー担当者が説明を受ける来場者



「農業所得の増大と農業生産の拡大を通じて地域の活性化に寄与する」をテーマに、約40社のメーカーが出展し、最新の農業機械や農業資材の展示販売を行いました。

群馬県本部と県内JAは7月13、14日の2日間、群馬県本部の総合センター内特設会場で「アグリマシフェア2024」を開催しました。

各メーカー担当者によるトラクターセルフメーション講習会や農業用ドローン・直進アシストトラクターの各実演会も実施するなど、作業省力化のための新技術や新製品の情報を提供しました。多くの来場者でにぎわい、2日間で約4000人が来場しました。

# 「神セブングミ」を開発・販売

「ニッポンエール全国ご当地グミ総選挙2024」人気投票を受けて

営業開発部



「神セブングミ」の限定パッケージ(左)と通常パッケージ

全農は、今年の2、3月に開催した「ニッポンエール全国ご当地グミ総選挙2024」の人気投票で1〜7位のグミの果汁をミックスした「神セブングミ」を開発しました。

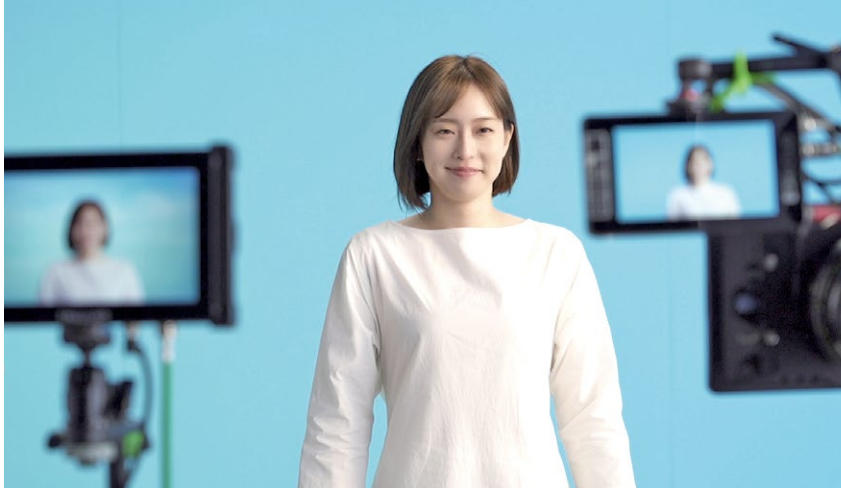
「神セブングミ」は、ニッポンエールグミ「山梨県産ブラックキング」「富山県産入善ジャンボ西瓜」「長野県産シャインマスカット」「北海道産夕張メロン」「群馬県産やよいひめ母」「福島県産あかつき桃」「愛知県産蒲郡みかん」の果汁をミックスしたグミです。

国産果実7種の果汁を使用したフルーツミックス味が楽しめます。全国農協食品㈱を販売者として、8月22日から全国のセブン・イレブンで限定パッケージ品を販売、8月26日から通常パッケージ品を全国各店で販売します。

# Think Sustainable Price

## 全農所属 石川佳純さん出演CM第2弾

# 「神奈川」編・「秋田」編を公開



石川さんのメイキングカット

全農は8月6日、全農所属で全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんが出演する新CM「Think Sustainable Price」の第2弾「神奈川」編と「秋田」編を公開しました。

【広報・調査部】

### CM制作への思い

世界情勢や気候変動などの影響を受け、生産コストは高止まりしています。その中でも、食と農を未来へつないでいくために「持続可能な価格とは何か」を生産者と消費者の立場を超えて、ともに考えるきっかけになってほしいという思いから制作しました。

### CM撮影エピソード

今年3月に公開した第1弾

から、約4カ月ぶりの公開となった今作。生産者の方々の撮影は雄大な大山が見おろす神奈川県内の田んぼと自然豊かな秋田県内の牛舎で行われました。

石川さんの撮影は都内スタジオで実施。石川さんがまるで大自然の中にいるかのようなシーンでは、風を使用した撮影にも終始笑顔で、臨機応変に対応するなど、和やかな雰囲気での撮影を終えました。

### 石川佳純さん 特別インタビュー

撮影後の特別インタビューで石川さんは「農家の皆さまが作ってくださったっている安全・安心な食べ物が店頭に並んでいるというのは、当たり前前なことではないですし、私自身もありがたくいただきたいと思います。『資源は限りあるもの』という意識から、食べるものは基本的には残さないようにしています

し、自分が食べられる分だけ買ったり作ったりすることで、無駄遣いをしないように普段から気をつけています」と話しました。さらに「今回のCM撮影は「Think Sustainable Price」というテーマで日頃おいしくて安全・安心な食材を届けてくださる農家の皆さまへ感謝の気持ちを込めて撮影しました。スポーツ選手として長い間活動する中で、普段食べているものが体を作るという意識は持っていました。これからも普段の食事から農家の皆さまを意識し、感謝を忘れずに安全・安心でおいしい食べものを楽しみにいただきたいと思います」とコメントしました。

新CMは全農広報部のYouTubeチャンネルで見ることが出来ます。石川さんの特別インタビューを含めた撮影時のメイキング映像も公開中です。ぜひご覧ください。



「秋田」編撮影の様子



「神奈川」編のワンシーン

「神奈川」編30秒CM

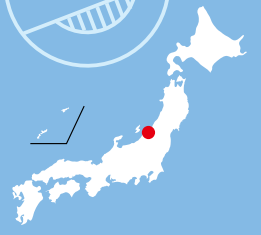


「秋田」編30秒CM



石川佳純さんメイキング  
インタビュー映像





# 農業機械大展示会2024サンクスフェア 多くの生産者が来場 経営課題解決に向け提案も

新潟県本部は6月21、22日の2日間、JAグループ農業機械事業推進協議会と県内JAとともに新潟市産業振興センターで「JAグループ農業機械大展示会2024サンクスフェア」を開催し、約3600人の来場者でにぎわいました。

## コスト低減、省力化、規模拡大 約30社が展示や技術情報発信

サンクスフェアは、県内の農業生産者が抱える「コスト低減」「省力化」「規模



メーカー約30社が展示したサンクスフェア

拡大」などの経営課題に対して、最新の農業機械の展示や営農技術情報などの発信により課題解決に向けた提案を行い、JAグループと県内農業生産者の結びつきを深めることを目的に開催しています。

国内農業機械メーカー約30社が一堂に会し、特に総合メーカー4社(三菱・クボタ・キセキ・ヤンマー)の製品を一度に見ることができなのが、「サンクスフェア」の特徴です。

会場では、JAグループ共同購入コンバインをはじめとした各社の低価格モデルや、栽培管理支援システム「ザルピオ®フィールドマネージャ」と連携した可変施肥が可能な田植機などのスマート農機が注目を集めました。法人や大規模生産者は高馬力・高機能、個人生産者は低価格モデルへそれぞれ関心を寄せていました。

また、スマート農機や営農情報に関するミニ講演会(水田の水管理装置、ザルピオ、直播向けコーティング処理済み種子「リゾケア」、水稻栽培における高温対策など)を行い、多くの来場者が参加しました。

## 肥料・農薬などコーナー設置 共同購入コンバイン試乗も

肥料・農薬、JAでんき、JA-OOI Lなどのコーナーも設置し、積極的に情報発信を行ったほか、JA新潟かがやき直売所や(株)佐渡乳業が出店するなど、農畜産物のPRにも取り組みました。

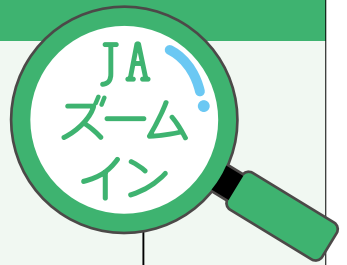
屋外会場では共同購入コンバインの試乗、ラジコン草刈り機とバッテリー農機の操作体験コーナーを設けました。積極的に体験する来場者でにぎわい、特に共同購入コンバインには50人の来場者が試乗し、操作性を確かめていました。



ラジコン草刈り機の操作体験



共同購入コンバインの試乗



# 「加賀梨」の有利販売と産地維持へ

## 担い手育成に新たな取り組みも

石川県のJA加賀は福井県と隣接する最南端に位置し、加賀市全域をエリアとするJAです。稲作を主体として、水田園芸にも力を入れており、近年はブロッコリーの出荷が増加しています。県内一の面積を有し、古くは大正時代から作付けされる産地もある地域を代表する品目の梨は「加賀梨」として商標登録し、2021年にはロゴ



21年に作成した「加賀梨」のロゴ

も新たに作成しました。出荷箱もロゴを入れたデザインに統一し、園芸作物では販売額トップとなっています。

### 産地の特徴を生かし販売先も振り分けて

管内には二つの梨産地があり、産地ごとに特徴のある取り組みを行っています。大玉生産を目指し一つ一つ手作業の人工授粉を行う小塩辻地区おしおつじと、蜂による自然交配や防蛾灯ぼごがによる害虫対策などを行っている奥谷地区があります。販売面でも小塩辻地区は歴史ある産地として地元中心に、奥谷地区では量販店向けに市場出荷を主体として関西方面にも販売するなど、それぞれの特徴を生かし、販売額の増加につなげています。

### 移住者や研修生を育て新規就農者を囲い込み

高齢化などの影響を受け、全国的に栽培面積の減少が続いている中、新規就農者の囲い込みにも力を入れていきます。行政とも連携し、県外からの移住者の募集を行っています。これまでに県外移住者の3人が新規就農しています。



「加賀梨」の選果場

### JA加賀 (石川県)



概要	2024年3月31日現在
正組合員数	4032人
准組合員数	5675人
職員数	180人
販売品取扱高	29億7千万円
購買品取扱高	29億1千万円
貯金残高	1281億7千万円
長期共済保有高	2515億3千万円
主な農産物	米、梨、ブロッコリー、大豆、ブドウ、カボチャ、白ネギ

さらに、今年度は国の「地域おこし協力隊」制度を活用して、子会社である(株)アグリサポート加賀で雇用した人

材を産地に研修生として派遣し、技術習得をサポートする仕組みを構築しました。その結果、2人の研修生を産地に派遣することができ、将来的な生産者の育成に貢献しています。



生産者の育成にも尽力

来年度は設立50周年となる産地があり、気運も高まってきています。さらなる「加賀梨」の知名度アップ、生産振興に取り組みしていきます。

# 小学生卓球の日本一が決定



## 全農杯2024年 全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部)に 特別協賛



副賞を贈呈した安田専務とホープスの部の入賞選手

全農は、7月26~28日に兵庫県のグリーンアリーナ神戸で開催された「全農杯2024年全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バンビの部)」に特別協賛し、出場選手を「ニッポンの食」で応援しました。

【広報・調査部】

大会には、都道府県予選会を勝ち抜いた卓球少年・少女たち996人が集結し、ホープス(小学6年生以下)、カブ(同4年生以下)、バンビ(同2年生以下)の各種目の日本一の座を競いました。大会最終日の28日には安田忠孝代表理事専務が、各種目1位から3位までの選手に石川県産米「ゆめみづほ」と石川県産ブドウ「ルビーロマン」を贈呈しました。

会場では、出場選手を対象に「間違い探し企画」や「大型ガラポン抽選会」を実施しました。間違い探しは、朝食を食べることの大切さやバランスの良い食事に関する豆知識も伝える内容で、挑戦すると抽選会に参加できる企画です。

選手たちは大型のガラポンや豪華賞品に興味津々の様子で、長蛇の列ができていました。参加選手全員に全農オリジナルフェイスタオルをプレゼントすると、受け取った選手たちは笑顔で記念撮影をしていました。



間違い探しに挑戦する選手たち



大型ガラポン抽選会には長蛇の列

### 副賞一覧

賞名	賞品
優勝	石川県産米「ゆめみづほ」120kg、「ルビーロマン」1房
2位	石川県産米「ゆめみづほ」60kg、「ルビーロマン」1房
3位	石川県産米「ゆめみづほ」30kg、「ルビーロマン」1房
フェアプレー賞	石川佳純(かすみん)カレー、石川佳純さん直筆サイン色紙
参加賞	農協ごはん(バックごはん)、えひめ飲料「POM 塩と夏みかん」他

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

### 和歌山発!ふるさとの便利

和歌山県の特産品といえば、ミカンや梅干しなどが有名ですが、和歌山市は全国有数の「新しょうが」の産地でもあります。市内の豊潤な砂地で育てられる「新しょうが」は、サイズが大きくて肉厚。色白でみずみずしく柔らかいのが特徴です。

甘酢漬けはもちろん、しょうがごはんやサラダ、天ぷら、ジュースなど、幅広いメニューをお楽しみいただけます。

JAわかやまの集荷場から新鮮な状態で直送します。



和歌山県産 新生姜  
Lサイズ 約4kg

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

